スポーツで、もっと、幸せな国へ。Jリーグ百年構想

OFFICIAL NEWS LETTER

J.LEAGUE

30 May 2014 Vol.217

J.LEAGUE™ NEWS

写真左上から時計回りに、北九州市立本城陸上競技場（5月3日、北九州 vs 横浜FC）、京都市西京極総合運動公園陸上競技場兼球技場（5月3日、京都 vs 讃岐）、埼玉スタジアム２００２（4月29日、浦和 vs 横浜FM）、日産スタジアム（5月3日、横浜FM vs G大阪）

サッカーシーズン全開。笑顔、喜び、期待

ことしも各地で「Jリーグファミリー Joinデイズ」開催。世界のひのき舞台で戦うJリーグ選手も決定

リーグ戦は中盤戦に入り、熱戦が展開されている。気候もさわやかになり、スタジアムでの観戦にはもってこいのシーズンとなった。4月下旬から5月上旬の連休期間を中心に、試合開催日のスタジアムでは恒例の「Jリーグファミリー Joinデイズ」を開催。各クラブがピッチ内外で趣向を凝らしたイベントを催し、家族連れなどが思い思いのひとときを満喫した。一方、5月12日には２０１４ ＦＩＦＡワールドカップブラジルで戦うSAMURAI BLUE（日本代表）の23人の選手が発表された。約半数の11人が現在のJリーグでプレーする選手たちで、海外のクラブに所属する選手ももちろん、Jクラブから羽ばたいた。日本サッカーの実力が問われる決戦がいよいよ近づいてきた。（2、8ページに関連記事）

J.LEAGUE™ TOP PARTNERS

Calbee　Canon　KONAMI　AIDEM　Coca-Cola　JCB　明治安田生命

J.LEAGUE™ 100 YEAR VISION PARTNER: 朝日新聞
J.LEAGUE™ FAIRPLAY PARTNER: 東京エレクトロン
LEAGUE CUP SPONSOR: ヤマザキナビスコ
SUPER CUP SPONSOR: FUJI xerox
J.LEAGUE™ OFFICIAL EQUIPMENT PARTNER: adidas
J.LEAGUE™ OFFICIAL BROADCASTING PARTNER: スカパー!
SPORTS PROMOTION PARTNER: toto
J.LEAGUE™ OFFICIAL TICKETING PARTNER: ぴあ

J3 LEAGUE™ TITLE PARTNER: 明治安田生命
J3 LEAGUE™ OFFICIAL PARTNERS: adidas　JAPAN AIRLINES
J3 LEAGUE™ OFFICIAL BROADCASTING PARTNER: スカパー!
SPORTS PROMOTION PARTNER: toto

編集・発行 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ

ファミリーJoinデイズ

Jリーグと Jクラブはゴールデンウイークの期間を中心に、恒例となった「Jリーグファミリー Joinデイズ」のイベントを各地のリーグ戦会場で開催した。同イベントが開かれるのは、ことしで14度目。各クラブがそれぞれに趣向を凝らしたイベントは、家族連れなどでにぎわった。ここでは、その一部を紹介しよう。また、今回は同イベント開催中のスタジアムに来場した小学生以下の子どもたちに、スタジアムでしか手に入らないポケモンカードゲーム「ピッチのピカチュウ」のオリジナルキラカードが先着でプレゼントされた(一部の会場で実施せず)。

ピカチュウのオリジナルキラカードにご機嫌の子どもたち

ベガルタ仙台　5月6日 仙台 vs 神戸

ユアテックスタジアム仙台で行われた「キッズ対象 ベガッ太誕生日会へご招待」では、5月2日に誕生日を迎えたクラブマスコット「ベガッ太」にかまぼこなどをプレゼント。また、誕生日メッセージカードの優秀者には、ベガッ太からお返しが贈られた。

アルビレックス新潟　5月6日 新潟 vs 清水

「家族でSMILE！ファミリーサッカーフェスティバル」をデンカビッグスワンスタジアムで実施。ピッチでは親子ミニサッカーゲーム、新潟のサッカースクールコーチ指導による、家庭でも気軽に楽しめるボールを使った体操の指導なども行われた。

ザスパクサツ群馬　5月6日 群馬 vs 山形

「スマイルパーク～試合の前に家族みんなで楽しもう！～」は、正田醤油スタジアム群馬のピッチを開放。家族連れなどが芝生の上で思い切りボールを蹴る喜びを味わい、選手たちとも交流の機会を持つなど、試合前のひとときを楽しんだ。

名古屋グランパス　4月26日 名古屋 vs 鳥栖

名古屋市瑞穂陸上競技場で「ちくわ笛ライブパフォーマンス」を開催。ちくわ笛奏者の住宅正人氏のライブとワークショップが行われた。親子で挑戦したちくわ笛作りは意外と簡単に完成も、音を出すまでは悪戦苦闘。最後はみんなで合奏に挑戦した。

FC東京　5月6日 F東京 vs 大宮

味の素スタジアムに隣接するアミノバイタルフィールド横の投てき場で、FC東京普及部コーチの指導による「FC東京親子サッカークリニック」が行われた。子どもたちは元気いっぱい。天然芝の上で、お父さん、お母さんたちとサッカー教室を楽しんだ。

ヴィッセル神戸　5月3日 神戸 vs 広島

ノエビアスタジアム神戸で行われたのは「ヴィッセル神戸ファミリー観戦会」。親子でかぶとを作る催しもあり、シールを張ったり色を塗ったり、独自のかぶとをデザイン。子どもたちは完成したかぶとを頭に記念撮影後、試合観戦へ向かった。

川崎フロンターレ　5月3日 川崎F vs 甲府

等々力陸上競技場前の川崎フロンパークでは、「笑点」ならぬ「勝点(しょうてん)」と題した落語とのコラボイベントを開催。特設演芸場ステージでは「そばすすりコンテスト」が行われ、扇子を箸に見立ててそばをすする物まねに挑戦した。

徳島ヴォルティス　4月26日 徳島 vs 新潟

鳴門・大塚スポーツパークポカリスエットスタジアムには特撮テレビドラマの「仮面ライダー鎧武／ガイム」が来場し、ショーを実施した。終了後には握手会、サイン会、写真撮影も行われ、憧れのヒーローを間近にした子どもたちは目を輝かせていた。

宮本恒靖Jリーグ特任理事に聞く

Jリーグがメッセージ、姿勢を明確に発信することが大切

前号に続き、宮本恒靖Jリーグ特任理事のインタビューをお届けする。昨年は、日本人の元プロサッカー選手としては初めて、FIFAマスターを卒業。その経験、成果を今後、日本のスポーツ界に生かすことが期待される。

PROFILE

宮本 恒靖(みやもと つねやす) 1977年2月7日生まれ。大阪府出身。1995〜2011年にガンバ大阪、ヴィッセル神戸で主にDFとして活躍(07〜08年はオーストリアのザルツブルク所属)。J1リーグ戦337試合出場(8得点)。日本代表としては71試合に出場(3得点)し、02、06年のFIFAワールドカップではキャプテンを務めた。

※このインタビューは2014年4月14日に実施しました。

振れ幅をポジティブな方向に

―― 宮本さんは昨年7月、FIFAマスターを卒業しました。これはどのような組織なのですか。

宮本 FIFA(国際サッカー連盟)がスイスのスポーツ教育機関と提携した、スポーツ学のコースです。連盟や協会といったスポーツの組織、あるいはクラブなどを運営していくような人材の育成を目指し、例えば卒業生がFIFAのコンペティション部門、マーケティング部門、ディベロップメント部門に入ったりします。僕が学んだクラスには、サッカーだけでなく、国際スキー連盟に勤めている人もいました。現在、300人以上の卒業生がいて、さまざまなところに就職しています。カリキュラムはスポーツの歴史学、経営学、法学で、約10カ月かけて英国、イタリア、スイスの3都市で勉強しました。

―― 学んだことでJリーグや特任理事としての活動に生かせそうなことはありましたか。

宮本 例えば経営学のところで、顧客満足度を上げるためにはマーケティングを重視することが必要という点があります。チケット購入から始まり、アクセス、入場時のスムーズさなど、観戦日に経験するさまざまな事柄について、ポジティブとネガティブの振れ幅を、できるだけポジティブな方向に持っていく。そこをうまくコントロールしてリピーターを増やすことが、クラブの収益につながっていくと考えます。当然、Jクラブも取り組んでいるでしょうし、自分でスタジアムに行っても感じます。

―― 欧州では現地のスタジアムも訪れましたか。

宮本 スイスのベルンのスタジアムに行きました。収容人数は3万人ほどで、内部にはショッピングセンターがあります。スタジアムは試合の日しか行かないというのではなく、毎日の生活の一部という感覚ですね。スタジアムを毎日稼働させるという目的なら、アクセスの良い場所に造ることが重要だと思いました。FIFAマスターでは、スタジアム自体が生み出す収入をいかに増やすかも大事だと学びました。Jリーグがさらに良くなっていくためには安定した経営が必要になるので、スタジアムからお金を生み出すという考えが、これからのビジネスモデルになればいいなと思います。

基本に立ち返ることは大事

―― ところで、特任理事に就任後、Jリーグの試合をスタジアムで見ましたか。

宮本 何試合か見に行きました。選手生活を引退してから、なかなかJリーグの試合をゆっくり見に行く機会がなかったので、少し懐かしく感じましたね。これからできる限り、試合会場に足を運びたいと思っています。

―― 試合をピッチの外から見るというのは、どのような感じでしたか。

宮本 (セレッソ大阪 vs ガンバ大阪の)「大阪ダービー」(J1第7節、4月12日)の時にピッチレベルを歩いたのですが、「いいなあ」と思いました。ピッチ上のプレーだけでなく、サポーターの応援も印象深かった。Jクラブの現場サイドは、プレーの質の向上を図ることでファン・サポーターを魅了することができれば、さらに素晴らしい雰囲気をつくっていくことができると思います。村井 満チェアマンが言うように、一生懸命にプレーするとか、接触プレーにも簡単に倒れないという姿が人々の心を打つのではないかと思います。そういうところをJリーグの魅力として、これからもっと磨いていってほしいですね。

―― チェアマンは、全力プレーはもちろん、素早いリスタート、迅速な交代もチームや選手に求めています。選手の立場からは、どのように考えますか。

宮本 基本的なところに立ち返ることは大事だし、新たなファンにスタジアムへ来てもらいたいということで、特にそのような層に向けたメッセージだと理解しています。もちろん、試合の中ではさまざまな駆け引きがあり、それを全て否定するつもりはありませんが、Jリーグが、目指すメッセージ、姿勢を明確に発信することは大切なことです。

―― そのバランスは難しいですね。

宮本 基本的に誰でも勝負には勝ちたいと思うでしょう。その気持ちは、選手にも子どものころから染み付いています。試合中の駆け引きなどもサッカー文化の一部なんだということを理解しつつ、Jリーグが目指すサッカーとはこういうものだと打ち出し、それを選手が理解することも必要だと思います。村井チェアマンが聞いたら、「いや、それは違う」とおっしゃるかもしれませんが(笑)。

―― 今後はどのような活動をしていく予定ですか。

宮本 月一回のJリーグ理事会に出席し、Jリーグの試合に足を運び、またJリーグ関連のイベントに参加したりします。これまでは(Jリーグがある)JFAハウスに足を運ぶことがあまりなかったので、皆さんがどのように仕事し、コミュニケーションを取っているかなど学んでいるところです。各地方によってもやり方が違うでしょうから、いろいろなクラブの話も聞いて勉強し、協力できることがあればいいですね。

―― 今シーズンから明治安田生命J3リーグも始まりました。

宮本 今後も日本中にクラブが生まれてくるでしょう。その中には、トップクラブ、トップリーグを目指さないクラブがあるかもしれません。それでも、地域でしっかりとした存在感があって、地域の人々やスポンサーに支えられて活動を続ける。そうしたことが、サッカー文化、スポーツ文化の成熟につながっていくのではないでしょうか。

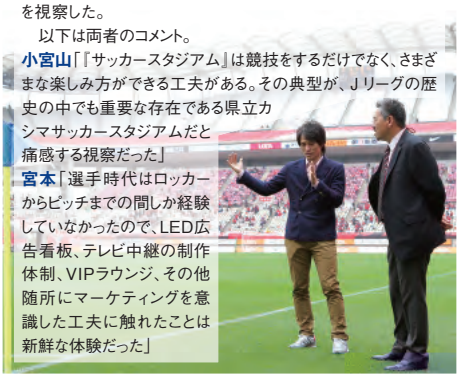
スタジアムを視察

宮本恒靖氏と、やはりことし1月にJリーグ理事に就任した野球評論家の小宮山 悟氏(写真右)が4月29日、J1リーグ戦第10節の鹿島アントラーズ vs 清水エスパルスが行われた県立カシマサッカースタジアムに足を運び、スタジアム各所を視察した。

以下は両者のコメント。

小宮山「『サッカースタジアム』は競技をするだけでなく、さまざまな楽しみ方ができる工夫がある。その典型が、Jリーグの歴史の中でも重要な存在である県立カシマサッカースタジアムだと痛感する視察だった」

宮本「選手時代はロッカーからピッチまでの間しか経験していなかったので、LED広告看板、テレビ中継の制作体制、VIPラウンジ、その他随所にマーケティングを意識した工夫に触れたことは新鮮な体験だった」



TOPICS トピックス（4月24日～5月21日）

※各項目の詳細については、Jリーグ公式ホームページ（http://www.j-league.or.jp）を参照

2014 Jリーグ 4月度 月間ベストゴール／コカ・コーラ Jリーグ月間MVP 発表

各月のJ1リーグ戦で最も優れたゴールを表彰する「月間ベストゴール」に、4月度はFW李 忠成（浦和レッズ）が第6節のベガルタ仙台戦（4月6日）で66分に決めた得点が選ばれた。このゴールは、年間で最も優れたゴールに与えられる「最優秀ゴール賞」のノミネートゴールとなり、同賞はシーズン終了後に行われるJリーグアウォーズで表彰される。

また、各月のリーグ戦（J1、J2）において最も活躍した選手を表彰する「コカ・コーラ Jリーグ月間MVP」には、J1はMFレオ シルバ（アルビレックス新潟）、J2はDF遠藤 航（湘南ベルマーレ）が選出された。両選手にはそれぞれ30万円、20万円の賞金が授与される。

受賞発表の5月20日にはJFAハウスで、選考委員の一人である宮本恒靖Jリーグ特任理事が映像を交えながら解説を加えた。

見事なループシュートを「評価していただきうれしい」と李 忠成

宮本氏はレオ シルバ（左）の「ファウルせずにボールを奪う技術」を称賛

遠藤はDFながら4得点を挙げてチームの快進撃に貢献

現在の国立競技場でJリーグ最後の試合

ことし7月から全面的な改修に着手する現在の国立競技場で、Jリーグの試合としては最後となるヴァンフォーレ甲府 vs 浦和レッズが5月6日に行われた。Jリーグの村井 満チェアマンをはじめ、日本サッカー協会（JFA）の大仁邦彌会長ら、日本サッカー界のトップも顔をそろえ、初代Jリーグチェアマンの川淵三郎JFA最高顧問がキックオフ前に「国立競技場は世界に誇る見事な素晴らしい芝生のピッチを、われわれに提供し続けてくれた。国立競技場の関係者の皆さんに、心から厚く御礼を申し上げます」とスピーチした。

国立競技場は、1993年5月15日に行われた記念すべきJリーグ開幕戦、ヴェルディ川崎（現 東京ヴェルディ）vs 横浜マリノス（現 横浜F・マリノス）の舞台ともなった。これまで、J1・J2リーグ戦、Jリーグヤマザキナビスコカップ、FUJI XEROX SUPER CUPなど、計376のJリーグ公式試合を開催した。

ピッチに立った川淵JFA最高顧問（右）と村井チェアマン。左はJリーグ百年構想アンバサダーのMr.ピッチ

「日本ミャンマー外交関係樹立60周年記念 日本財団チャリティマッチ ヤンマーカップ」を後援

Jリーグは、公益財団法人 日本財団およびミャンマーサッカー連盟が主催する「日本ミャンマー外交関係樹立60周年記念 日本財団チャリティマッチ ヤンマーカップ」（マッチネーミングスポンサー：ヤンマー株式会社）を後援することを決定した。この大会は、日本とミャンマーの外交関係樹立60周年を記念し、両国で人気のあるサッカーを通じた交流を通して、両国のさらなる関係強化と恒久的な友好関係の構築を目的に開催。大会はことし6月28日（土）17時（現地時間）、ミャンマーのヤンゴン市で行われ、ミャンマー代表とセレッソ大阪が対戦する。

「Jマジ！20 ～J.LEAGUE MAGIC～」実施 ～J1・J2の32クラブが全国の20歳を招待～

Jリーグでは昨年に引き続き、若年層のファン獲得を目的として、J1・J2の32クラブの協力を得て、全国の20歳の若者（1994年4月2日～95年4月1日生まれの男女）をJ1リーグ戦、J2リーグ戦、Jリーグヤマザキナビスコカップの試合に招待（ホーム側自由席）する「Jマジ！20 ～J.LEAGUE MAGIC～」を実施している。

本施策は、株式会社リクルートライフスタイルに設置された観光に関する調査・研究、地域振興機関「じゃらんリサーチセンター（JRC）」の協力を得て実施。JリーグとJ1・J2の各クラブは20歳限定招待券を、JRCは若年層会員へのアプローチとシステム開発をはじめとするフロー設計を担い、両社が連携することで若者が観戦に行くきっかけを創出する。

2014 Jリーグヤマザキナビスコカップを インドネシア、ミャンマー、タイで放送

2014 Jリーグヤマザキナビスコカップがインドネシア、ミャンマーの「WAKUWAKU JAPAN」およびタイの「True Visions」で放送されることが決定した。インドネシアおよびミャンマーでJリーグヤマザキナビスコカップがテレビ放送されるのは初めて。予選リーグ1試合、決勝を含む決勝トーナメント9試合が放送される。

「劇場版 仮面ライダー鎧武／ガイム」&「烈車戦隊トッキュウジャー THE MOVIE」とJリーグのコラボレーションが決定！

Jリーグは、東映株式会社（東京都中央区、代表取締役社長：多田 憲之）がことし7月19日（土）に公開を予定している映画「劇場版 仮面ライダー鎧武／ガイム」および「烈車戦隊トッキュウジャー THE MOVIE」とコラボレーションすることを決定した。

「劇場版 仮面ライダー鎧武／ガイム」では、主人公たちが各チームに分かれてサッカーで対決。サッカーシーンの撮影ではJリーグが全面協力し、佐藤勇人選手（ジェフユナイテッド千葉）、駒野友一選手（ジュビロ磐田）、中山雅史氏（元Jリーグ選手）も登場するなどサポートしている。「烈車戦隊トッキュウジャー THE MOVIE」では、映画本編ではなく、プロモーションでコラボレーション。クラブと地元鉄道会社とトッキュウジャーで相互送客を目指す。なお、本コラボレーションでは、他にもJリーグおよびJクラブ限定グッズの製作・販売、夏休みには各クラブでさまざまなコラボレーションイベントを行う予定。

トッキュウ1号（左）、仮面ライダー鎧武と共に映画をアピールする中山氏

選手ステータス協議会メンバーが決定

Jリーグは5月20日に開催した理事会で、選手ステータス協議会メンバーを下記のとおり決定した。同協議会は2011年3月、日本サッカー協会（JFA）、JクラブおよびJリーグが日本プロサッカー選手会（JPFA）に対し、統一的な対応方針・姿勢を取るために必要な協議・調整を行うことによって、選手の地位（ステータス）向上に資することを目的に設置された。

選手ステータス協議会 メンバー

議　長	中野　幸夫	Jリーグ専務理事
メンバー	原　博実 ※	JFA専務理事
メンバー	大河　正明	Jリーグ常務理事
メンバー	福井　一也 ※	JFA特任理事／事務局長
メンバー	鈴木　茂 ※	大宮アルディージャ 代表取締役社長
メンバー	三好　豊	JFA法務委員長
メンバー	野宮　拓	Jリーグ法務委員長

※新任

「２０１４Ｊユースカップ」大会概要発表

Ｊリーグは10月4日（土）より、ユース年代の選手育成と活躍の舞台となる「２０１４Ｊユースカップ 第22回Ｊリーグユース選手権大会」を開催する。22回目を迎える本大会は、Ｊ１・Ｊ２・Ｊ３の47クラブが参加（グルージャ盛岡、福島ユナイテッドＦＣ、藤枝ＭＹＦＣ、ＦＣ琉球は不参加）。7月22日（火）～25日（金）に予備予選、10月4～26日（日）に予選リーグを実施。決勝トーナメントは11月1日（土）、同3日（月・祝）に始まり、12月23日（火・祝）にヤンマースタジアム長居で決勝が行われる。

Ｊリーグ百年構想クラブ 審査結果

Ｊリーグは5月20日に開催した理事会で、「Ｊリーグ百年構想クラブ」への申請について審議した結果、栃木ウーヴァＦＣを「Ｊリーグ百年構想クラブ」として承認した。クラブの概要は下記のとおり。

敬称略

栃木ウーヴァＦＣ	
法　人　名	株式会社 栃木ウーヴァ　代表取締役：岩原 克彦
所　在　地	栃木県栃木市大町 20-15
所属リーグ	日本フットボールリーグ（ＪＦＬ）
ホームタウン	栃木市
ホームスタジアム	栃木市総合運動公園陸上競技場

～被災地の「今」をみる～「東日本大震災 復興支援写真展」実施

Ｊリーグは東日本大震災の復興支援活動の一環として、被災地の現在を知ってもらうことを目的に「～被災地の『今』をみる～ 東日本大震災復興支援写真展」を実施する。「Ｊリーグ ＴＥＡＭ ＡＳ ＯＮＥ募金」を原資として被災地の今を写真パネルとして作成し、今シーズンのＪ１・Ｊ２クラブのホームゲーム開催時に、各スタジアムなどで展示。Ｊリーグトップパートナーのキヤノンマーケティングジャパン株式会社が出力協力を行う。併せて「Ｊリーグ ＴＥＡＭ ＡＳ ＯＮＥ募金」も実施する。

「朝日新聞スポーツ チャレンジＡ２０１４」を後援

Ｊリーグは5月20日に開催した理事会で、Ｊリーグ百年構想パートナーである朝日新聞社が主催し、ことし7月6日（日）に立教大学池袋校舎で予定されている「朝日新聞スポーツ チャレンジＡ２０１４」を後援することを決定した。このイベントは、スポーツを通じ「挑む心」の大切さを子どもたちに学んでもらうことを目的とし、小学3年生から中学生までの子どもたちを対象に、多くの競技体験を通じて培ってもらうことが狙い。「チャレンジＡ」では、子どもたちが障がい者スポーツなどの競技にも挑む。

COPA COCA-COLA 2014に特別協力

Ｊリーグは、COPA COCA-COLA 2014実行委員会が主催する「COPA COCA-COLA 2014」に特別協力する。この大会は、成長期にある中学生世代に対して、飲料製品に関する情報の提供や正しい水分補給、食育に関する認知・普及活動のほか、活動的で健康的な生活習慣づくりを、サッカーを通じて体験してもらう場をつくることを目的に開催される。

AFC CHAMPIONS LEAGUE

ＡＦＣチャンピオンズリーグ２０１４
日本勢はラウンド16で敗退

ホーム&アウェイによるＡＦＣチャンピオンズリーグ２０１４のラウンド16が5月上旬に行われ、川崎フロンターレ、セレッソ大阪、サンフレッチェ広島は準々決勝進出が成らなかった。川崎Ｆは昨年準優勝のＦＣソウル（韓国）にホームの第2戦で2－1と勝利し、2試合合計スコアを4－4とするも、アウェイゴール数の差で惜敗。同優勝の広州恒大（中国）と対戦したＣ大阪は、アウェイの第2戦を1－0でものにしたが、同じく2－5のスコアで敗退。広島はウェスタン・シドニー・ワンダラーズ（オーストラリア）をホームの第1戦で3－1と下すも2試合合計3－3で、やはりアウェイゴール数により8強入りを阻まれた。横浜Ｆ・マリノスはグループステージで敗退した。

Ｊリーグ公式ホームページに新コーナー

Ｊリーグ公式ホームページに、5月より新コーナーが加わった。「Ｊリーグの日」の5月15日に連載を開始したのが「Ｊリーグチェアマン 村井 満の“アディショナルタイム”」（http://www.j-league.or.jp/chairman/column）。村井チェアマンが通常業務を離れた「アディショナルタイム」に、選手・スタッフ、Ｊクラブのホームタウン訪問で出会った人々、各界で活躍する人々との交流、時にはファン・サポーターとの触れ合いなど、制約のないさまざまな場面でのコミュニケーションを通じて感じたことなどを、不定期に掲載する。

また、「スタジアム」コーナーもリニューアル（http://www.j-league.or.jp/stadium）。従来のスタジアム情報の他、スタジアム動画、関連リポート・コラムなどのコンテンツを追加した。

「Integrity of Sport シンポジウム」を後援

Ｊリーグは5月20日に開催した理事会で、独立行政法人日本スポーツ振興センターが主催し、6月7日（土）に東京国際フォーラムで行われる「Integrity of Sportシンポジウム」を後援することを決定した。同シンポジウムは、国際サッカー連盟の協力のもと、スポーツ界の脅威（違法賭博・八百長、ドーピング、ガバナンス欠如、暴力など）から、スポーツの完全性や高潔性（Integrity of Sport）を守ることの重要性を周知し、公正・公平なスポーツの発展に寄与することを目的に開催される。パネルディスカッションでは、Ｊリーグの村井 満チェアマンがパネリストとして参加予定。

平成26年度「ダメ。ゼッタイ。」普及運動を後援、および「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金運動を協賛

Ｊリーグは5月20日に開催した理事会で、平成26年度「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の後援、また、同運動に併せて行われる「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金運動への協賛を昨年に引き続き実施することを決定した。

「かんきょうみらいカップ２０１４ サッカー部門」を後援

Ｊリーグは5月20日に開催した理事会で、環境未来カップ実行委員会が主催し、7月12日（土）に札幌サッカーアミューズメントパークで行われる「かんきょうみらいカップ２０１４ サッカー部門」を後援することを決定した。

adidas CUP 2014 日本クラブユースサッカー選手権（Ｕ－18／Ｕ－15）大会を後援

Ｊリーグは5月20日に開催した理事会で、公益財団法人 日本サッカー協会および一般財団法人 日本クラブユースサッカー連盟が主催する「adidas CUP 2014 日本クラブユースサッカー選手権（Ｕ－18／Ｕ－15）大会」を後援することを決定した。

ＪＣＹインターシティカップ（Ｕ－15）EAST 2014堺市長杯 ＪＣＹインターシティカップ（Ｕ－15）WESTを後援

Ｊリーグは5月20日に開催した理事会で、一般財団法人 日本クラブユースサッカー連盟が主催する「ＪＣＹインターシティカップ（Ｕ－15）ＥＡＳＴ」および「２０１４堺市長杯 ＪＣＹインターシティカップ（Ｕ－15）ＷＥＳＴ」を後援することを決定した。

メニコンカップ 2014 日本クラブユースサッカー東西対抗戦（Ｕ－１５）を後援

Ｊリーグは5月20日に開催した理事会で、一般財団法人 日本クラブユースサッカー連盟などが主催する「メニコンカップ２０１４ 日本クラブユースサッカー東西対抗戦（Ｕ－15）」を後援することを決定した。

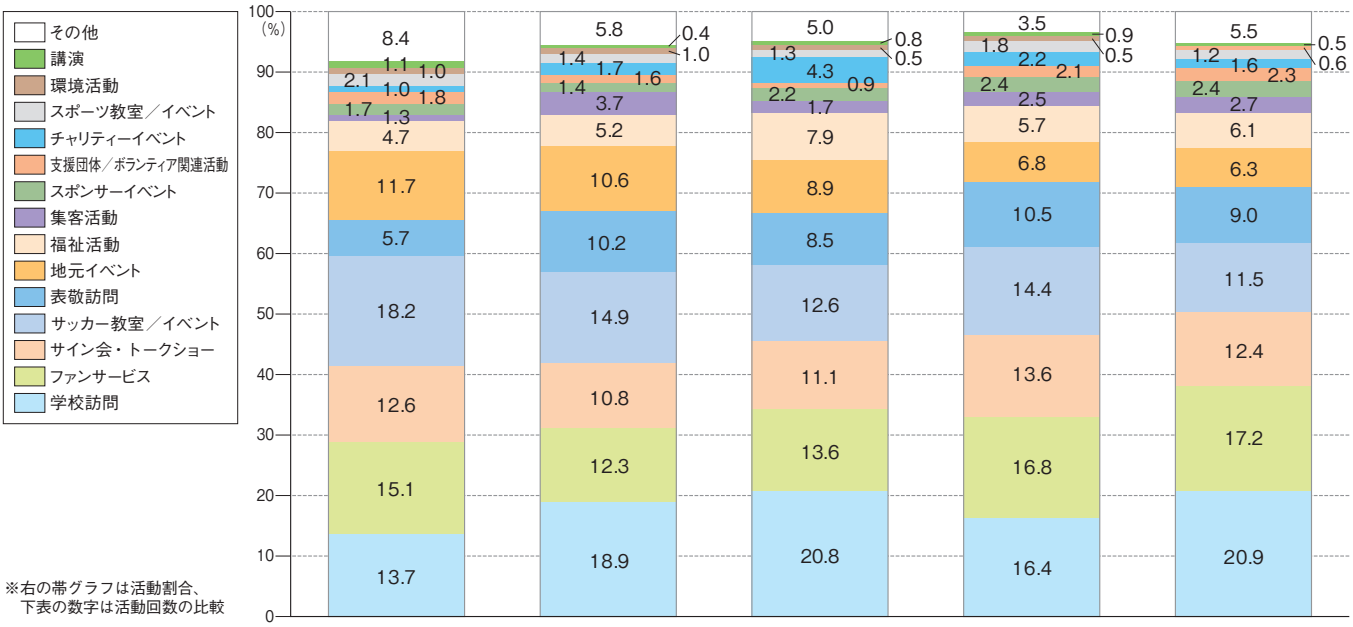
Jリーグ選手等ホームタウン活動調査 2013年

Ｊリーグは、Ｊクラブに所属する選手、監督などが、2013年1～12月にホームタウン活動に参加した状況を発表した。この調査は、各クラブのホームタウン担当者が、アンケートに入力して提出する活動記録を集計したもので、ホームタウン活動への参加状況を回数・時間など詳細に把握したもの。クラブ間で情報を共有し、今後の活動に結び付けるなどの目的がある。Ｊリーグは今後も、このような集計を通して選手、監督・コーチ、クラブ関係者のホームタウン活動を推進していく。（ここに紹介するのは調査結果の一部）

活動ジャンル

経年比較

■2013年の活動は、学校訪問が20.9%を占め1位、次いでファンサービスが17.2%、サイン会・トークショーが12.4%の順になっている。
・学校訪問は、2012年と比較して171回（614回→785回）と大幅に増加している。　・2012年に最も多かったファンサービスも20回増加している。



※右の帯グラフは活動割合、
下表の数字は活動回数の比較

	2009年		2010年		2011年		2012年		2013年	
	活動回数	前年比	活動回数	前年比	活動回数	前年比	活動回数	前年比	活動回数	前年比
学校訪問	332	104.1	599	180.4	663	110.7	614	92.6	785	127.9
ファンサービス	365	97.6	392	107.4	433	110.5	628	145.0	648	103.2
サイン会・トークショー	305	108.9	342	112.1	354	103.5	509	143.8	465	91.4
サッカー教室／イベント	441	116.4	474	107.5	402	84.8	538	133.8	434	80.7
表敬訪問	137	133.0	324	236.5	271	83.6	392	144.6	338	86.2
地元イベント	282	110.2	337	119.5	283	84.0	256	90.5	236	92.2
福祉活動	114	90.5	166	145.6	251	151.2	212	84.5	228	107.5
集客活動	31	86.1	117	377.4	55	47.0	92	167.3	101	109.8
スポンサーイベント	41	70.7	46	112.2	69	150.0	91	131.9	92	101.1
支援団体／ボランティア関連活動	43	97.7	52	120.9	30	57.7	77	256.7	85	110.4
チャリティーイベント	24	72.7	55	229.2	136	247.3	81	59.6	59	72.8
スポーツ教室／イベント	50	128.2	44	88.0	41	93.2	68	165.9	45	66.2
環境活動	24	85.7	33	137.5	16	48.5	19	118.8	22	115.8
講演	26	92.9	13	50.0	27	207.7	34	125.9	18	52.9
その他	202	169.7	183	90.6	159	86.9	130	81.8	206	158.5
総　計	2,417		3,177		3,190		3,741		3,762	

：活動回数1位　：活動回数2位　：活動回数3位　　赤い数字は前年比増

活動ジャンルサマリー

学校訪問（20.9%）
- 2012年と比較して増加傾向にあり、785回と13年で最も多い活動になっている。
- 5月、9月、10月の活動が多い。
- 5月の活動が前年より103回増と大幅に増加している。

ファンサービス（17.2%）
- 2009年より年々増加している。
- 学校訪問に次いで2位の活動数。
- クラブ主催の活動が前年より57回の増加（569回）となった。
- スタジアム、クラブ施設での活動が前年より増。
- 5月、6月、8月の活動が多い。

サイン会・トークショー（12.4%）
- 3番目に多い活動。前年より44回の減少。ただし、ファン・サポーター向けの開催では41回の増加となった。
- スタジアムでの開催が多く、前年より増加した。
- 3月、7月、8月の活動が多い。

サッカー教室／イベント（11.5%）
- 2012年と比較すると活動数は104回の減少となった。
- 小学生以下と保護者を対象とする活動がほとんど。
- スポンサー、行政の活動も多く見られ、それぞれ前年より増となっている。

表敬訪問（9.0%）
- 2012年から54回の減少。
- 1月、2月、12月の活動が多い。
- 社長、監督・コーチともに、最も多い活動。

地元イベント（6.3%）
- 2012年より20回の減少。
- スポンサーや地元企業主催は微増しているが、クラブで22回、行政で14回の減少となった。
- 7月、8月、10月の活動が多い。

福祉活動（6.1%）
- 前年より16回の増加。
- 小学生以下、中学生以上と学生を対象とした活動は増加しているものの、障がい者／高齢者向けの活動が15回減少している。
- 活動主体はクラブが最も多いが、福祉団体などの主催に参加する形も増えている。

集客活動（2.7%）
- 2012年より9回増加。クラブ主催の活動が96回と9割以上。
- 街頭／商業施設での活動が12年より13回、クラブ施設での活動が7回、増加している。
- 7月の活動が多い。

スポンサーイベント（2.4%）
- 前年と比較しても大きな増減はなく横ばい。
- 活動場所はスタジアムでの開催が25回増と大幅に増加している。
- 2月、12月の活動が多い。

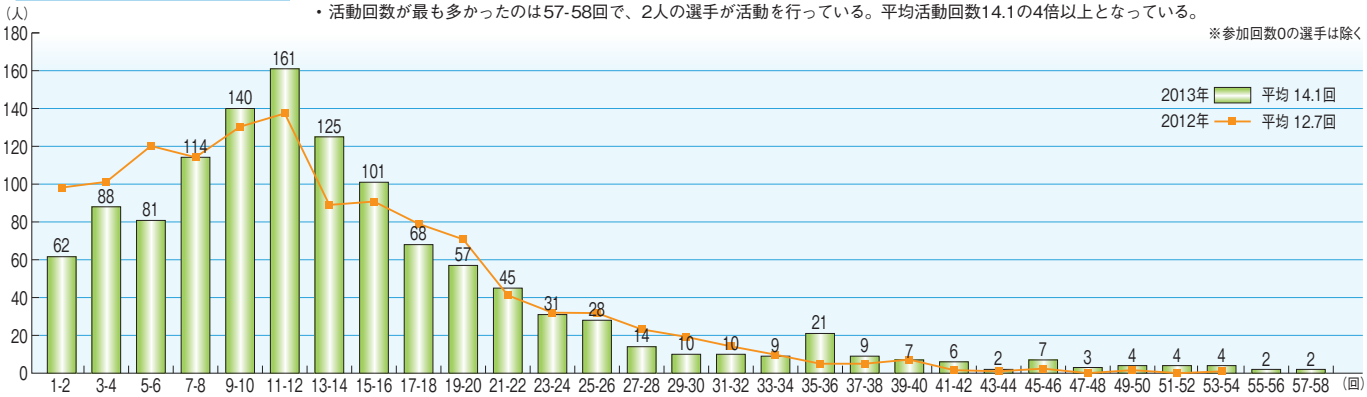
選手の活動

1人当たり活動回数 分布

■2013年の1人当たり活動回数で最も人数が多かったのは11-12回の161人。次いで9-10回の140人、13-14回の125人の順になっている。

・活動回数が最も多かったのは57-58回で、2人の選手が活動を行っている。平均活動回数14.1の4倍以上となっている。

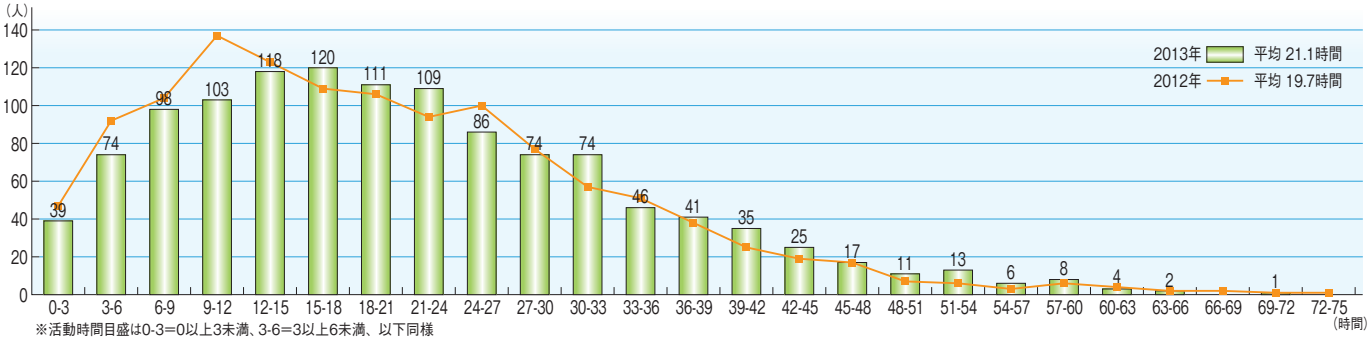
※参加回数0の選手は除く



1人当たり活動時間 分布

■選手1人当たりの活動時間で最も多いのが15-18時間で120人。次いで12-15時間の118人、18-21時間で111人の順になっている。

・最多活動時間は69-72時間で、1人の選手が活動を行っている。平均活動時間(21.1時間)の約3.3倍。



※活動時間目盛は0-3=0以上3未満、3-6=3以上6未満、以下同様

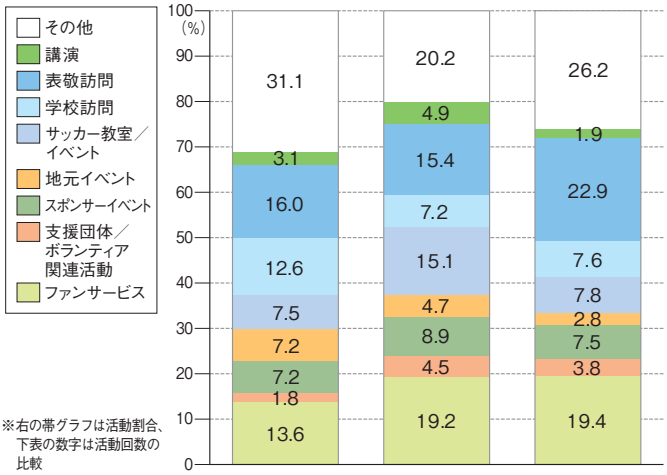
監督・コーチ／社長の活動

監督・コーチの活動

■最も活動が多いのは表敬訪問で、2012年より82回→132回と50回増加している。

・2012年と13年を比較すると、12年はファンサービスの割合が最も多く、次いで表敬訪問だったが、13年の割合は表敬訪問、ファンサービスの順に変化している(その他を除く)。ファンサービスも10回増加しているが、表敬訪問の方が伸び率が高い。

※主なその他の活動･･･必勝祈願、激励会への出席、地元での贈呈式、キャンプ地でのセレモニー参加など。



※右の帯グラフは活動割合、下表の数字は活動回数の比較

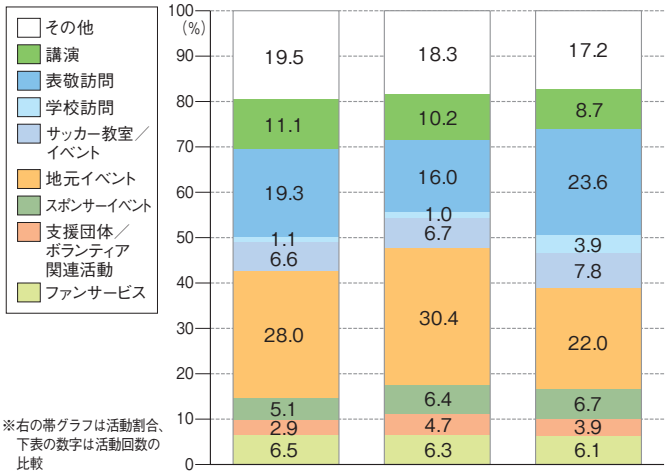
	2011年		2012年		2013年	
	活動回数	前年比	活動回数	前年比	活動回数	前年比
ファンサービス	76	—	102	134.2	112	109.8
支援団体／ボランティア関連活動	10	—	24	240.0	22	91.7
スポンサーイベント	40	—	47	117.5	43	91.5
地元イベント	40	—	25	62.5	16	64.0
サッカー教室／イベント	42	—	80	190.5	45	56.3
学校訪問	70	—	38	54.3	44	115.8
表敬訪問	89	—	82	92.1	132	161.0
講演	17	—	26	152.9	11	42.3
その他	173	—	107	61.8	151	141.1
総　計	557		531		576	

赤い数字は前年比増　：活動回数1位　：活動回数2位　：活動回数3位

社長の活動

■2013年の社長の活動内容は、表敬訪問が23.6%で最も割合が高く、次いで地元イベントが22.0%となっている。

・2012年と比較すると、学校訪問が大幅に増加(19回→103回)している。表敬訪問も311回(316回→627回)と大幅に増加している。



※右の帯グラフは活動割合、下表の数字は活動回数の比較

	2011年		2012年		2013年	
	活動回数	前年比	活動回数	前年比	活動回数	前年比
ファンサービス	105	—	125	119.0	163	130.4
支援団体／ボランティア関連活動	47	—	93	197.9	104	111.8
スポンサーイベント	82	—	126	153.7	177	140.5
地元イベント	453	—	598	132.0	584	97.7
サッカー教室／イベント	106	—	132	124.5	208	157.6
学校訪問	17	—	19	111.8	103	542.1
表敬訪問	312	—	316	101.3	627	198.4
講演	179	—	200	111.7	232	116.0
その他	315	—	361	114.6	458	126.9
総　計	1,616		1,970		2,656	

赤い数字は前年比増　：活動回数1位　：活動回数2位　：活動回数3位

2014 FIFAワールドカップブラジル

世界で戦うSAMURAI BLUE（日本代表）23人が決定

Jクラブからは11人が選ばれる

２０１４ＦＩＦＡワールドカップブラジルに参加する23人の大会エントリーメンバーが5月12日、SAMURAI BLUE（日本代表）のアルベルト・ザッケローニ監督から発表された。Jリーグのクラブからは11人が選ばれ、海外クラブ所属の12人は、2006年ドイツ大会の6人を上回る最多となった。

大会は6月12日（現地時間、以下同）に開幕し、7月13日に決勝が行われる。日本はグループステージでコートジボワール(6月14日)、ギリシャ（同19日）、コロンビア（同24日）と順に対戦。グループ2位以上がラウンド16に進出する。

なお、予備登録メンバーには、林 卓人（GK、サンフレッチェ広島）、駒野友一（DF、ジュビロ磐田）、水本裕貴（DF、広島）、中村憲剛（MF、川崎フロンターレ）、細貝 萌（MF、ヘルタ・ベルリン／ドイツ）、豊田陽平（FW、サガン鳥栖）、南野拓実（FW、セレッソ大阪）の7人が選ばれた。

メンバー発表に臨んだザッケローニ監督（右）。左は原博実 日本サッカー協会専務理事（Ｊリーグ理事）

ザッケローニ監督コメント

「相手に合わせず、自分たちのサッカーを出せる選手を重点的に選んだ。主導権を握りながらサッカーをするには、このメンバーが正しいと考えた。選手たちの能力、ポテンシャルには最大の信頼を寄せている。良いパフォーマンスをすれば、良い結果がついてくる可能性が高まると考えている。成功のイメージだけを持って戦っていきたい」

2014 FIFAワールドカップブラジル 日本代表メンバー

ポジション	選手名	年齢（開幕時）	所属クラブ	海外クラブ所属選手の最終Ｊクラブ
GK	川島 永嗣	31	スタンダール・リエージュ（ベルギー）	川崎フロンターレ
	西川 周作	27	浦和レッズ	
	権田 修一	25	ＦＣ東京	
DF	今野 泰幸	31	ガンバ大阪	
	伊野波 雅彦	28	ジュビロ磐田	
	長友 佑都	27	インテル・ミラノ（イタリア）	ＦＣ東京
	森重 真人	27	ＦＣ東京	
	内田 篤人	26	ＦＣシャルケ04（ドイツ）	鹿島アントラーズ
	吉田 麻也	25	サウサンプトン（イングランド）	名古屋グランパス
	酒井 宏樹	24	ハノーファー96（ドイツ）	柏レイソル
	酒井 高徳	23	ＶｆＢシュツットガルト（ドイツ）	アルビレックス新潟
MF	遠藤 保仁	34	ガンバ大阪	
	長谷部 誠	30	1.ＦＣニュルンベルク（ドイツ）	浦和レッズ
	青山 敏弘	28	サンフレッチェ広島	
	山口 蛍	23	セレッソ大阪	
FW	大久保 嘉人	32	川崎フロンターレ	
	岡崎 慎司	28	1.ＦＳＶマインツ05（ドイツ）	清水エスパルス
	本田 圭佑	27	ＡＣミラン（イタリア）	名古屋グランパスエイト※
	香川 真司	25	マンチェスター・ユナイテッド（イングランド）	セレッソ大阪
	清武 弘嗣	24	1.ＦＣニュルンベルク（ドイツ）	セレッソ大阪
	柿谷 曜一朗	24	セレッソ大阪	
	齋藤 学	24	横浜Ｆ・マリノス	
	大迫 勇也	24	ＴＳＶ1860ミュンヘン（ドイツ）	鹿島アントラーズ

※現在は名古屋グランパス

Jクラブ選出選手コメント

（各クラブ公式ホームページより。一部は抄出）

大久保 嘉人（川崎フロンターレ）

「日本代表として戦うからには優勝を目指してやっていきたいです。先発でも途中（出場）からでもこだわっていない。たくさんの人たちに支えてもらいここまで来ました。本当に感謝したいです。代表に入るという目標は達成しました。次の目標は日本代表としての優勝です。全力で頑張っていきます」

今野 泰幸（ガンバ大阪）

「今回選ばれて心の中ではものすごくうれしいのですが、それと同時に責任感という方が結構僕の中ではすごくあります。選ばれたからには、日本のために、自分のために全力を尽くして少しでも貢献して上にいけるように頑張ります」

西川 周作（浦和レッズ）

「選ばれたことを大変光栄に思いますし、やっとスタートラインに立てたなと思っています。選ばれたうれしさよりも、これから自分がどうやってゴールマウスを守るかだけを考えています。日々のトレーニングをして、努力をし、いい準備をしてブラジルワールドカップに挑めるように頑張りたいと思っています」

齋藤 学（横浜Ｆ・マリノス）

「ワールドカップのメンバーに選ばれて大変光栄に思います。Ｆ・マリノス関係者の皆さん、両親、親族の皆さん、愛媛ＦＣの皆さん、そして応援してくださったファン、サポーターの皆さんに感謝の気持ちを伝えたいと思います。しっかりトレーニングを積んで、自分が日本代表を勝たせられるように頑張っていきたいと思います」

柿谷 曜一朗（セレッソ大阪）

「セレッソ大阪の選手としてワールドカップ代表に選ばれたのは、森島（寛晃）さんや西澤（明訓）さんだけだったので、そういう選手になりたいと思ってやってきました。その夢がかなって今は本当にうれしく思います。責任や、みんなからの期待、いろいろなプレッシャーが大きくなると思いますが、日本人の代表として世界でしっかり日本のサッカーをアピールし、セレッソの代表だということを忘れずにプレーしていきたいです」

権田 修一（ＦＣ東京）

「今まで僕を支えてくれた家族、指導者、チームメート、全ての人にこの場を借りてありがとうと言いたいと思います。全てのサッカー選手の夢であるワールドカップの代表に選ばれたことをうれしく思うと同時に、責任を感じています。自分の持てる力の全てを日本のために出し尽くしてきたいと思います。応援、よろしくお願いします」

伊野波 雅彦（ジュビロ磐田）

「伝統のあるジュビロ磐田からワールドカップに出場できるということは非常に光栄です。ジュビロから毎回ワールドカップに出場しているという意味でも自分が次の世代につなげることができればと思います。本当に、今まで携わったチーム、関係者、全ての方に感謝したいと思います」

山口 蛍（セレッソ大阪）

「自分一人の力では選ばれなかっただろうし、いろんな方のサポートがあって、この選出になったと思います。自分に関わってくれた全ての方に感謝し、ワールドカップという大きな舞台で、しっかりと自分のプレーをしたいです。また、セレッソの代表としていくので、最後までそれを忘れずにしっかりと戦っていきたいと思います」

森重 真人（ＦＣ東京）

「ワールドカップのメンバーに選出され、本当にうれしく思います。いろいろな方に助けてもらいながら、また迷惑をかけながら、自分は成長してこられたと感じています。そのようなたくさんの方々に感謝をして、ワールドカップを戦ってきたいと思います。ＦＣ東京の代表として、いろいろなものを背負って戦ってきます」

遠藤 保仁（ガンバ大阪）

「今回メンバーにまず選ばれて非常にうれしく思っています。ただこれが自分自身では最終目標ではないし、チーム一丸となって必ず良い結果を出して、日本の皆さんと喜びを分かち合えるような大会にしたいと思います。頑張ります」

青山 敏弘（サンフレッチェ広島）

「ブラジルワールドカップの日本代表メンバーに選ばれて、感謝の思いしかありません。支えてくださった全ての方々の思いを持ってブラジルへ行きます。僕はサンフレッチェで育ち、ここまで大きくしていただいたクラブや関係者、監督、スタッフ、チームメート、サポーターの皆さんに感謝したいです」